

神戸物語2

2019年12月27日 発行：冬大会実行委員会
～100万ドルの中心から躍動を～ No. 1

みんな悩んで教師になろう！
〈第三章〉「授業の見方が変わる、教師の生きざまが変わる」

【現地実行委員長のあいさつ】

ようこそ 神戸へ、みなさんが主体の大会を創りあげよう
～共に学び、運営して、交流の輪を大きくひろげよう～

現地実行委員長 藤江直樹

年末のこのお忙しい時期に、熱い思いでこの集会を最優先されてご参加されたことに敬意を表します。

昨年度使用させて頂いた会場が、8月末に使用できないと連絡が入り、神戸での開催が大ピンチとなりました。そこで、急遽このピンチをなんとかしようと2～3日で淡路島案を作り上げましたが、多くの方のご尽力でこの神戸女子大学キャンパスを使わせて頂くことが9月初めに決まりました。厚く感謝致します。さすが、ピンチに強い同志会だと思って感心しています。このピンチをチャンスに、ぜひこの冬大会を成功させたいものだと思って取り組んでいます。

昨年度の神戸大会から、世代交代を意識して、関西・近畿ブロックの各府県から若い先生方の実行委員を募り、運営していくという方式をとり始め、本部常任委員会と現地の実行委員会が連携して130名あまりの参加者を得て、一定の成果を上げることができました。

今年は、ベテランと若い先生方が共に、さらに融合していきながら、みんなで研究会を創りあげ、その交流の輪（ベテランと若手、若手と若手のつながり）を広げていくことに重きをおきました。

まず、11月3日には、午前に森敏生さんをお招きして、「技術指導の系統性について」の事前学習会と午後からは、17名で第1回現地実行委員会を開催

しました。次に、今日まで2回の現地の下見をして、やっと大会の全体イメージができあがりつつあります。（12/14現在 大会参加予定者100名、交流会参加予定者75名）

この大会では、「共に学び、共に運営して交流の輪を大きく広げよう」をキャッチコピーにして、現在、実行委員は、現地の若い教師を中心に、（兵庫12、大阪5、滋賀2、京都2、和歌山1、東京2）の24名となっています。

大会中、いろいろと行き渡らないところがあるかもしれませんが、（今大会提案集、研究局発題 制野氏 『失敗学』に学ぶ 参照）みなさんが主体の研究会を創りあげ、素敵な「神戸物語パートⅡ」ができあがることを願ってやみません。そして、その成果を新学期に子どもたちに返していきたいものです。簡単ですが、現地からの歓迎の言葉とします。

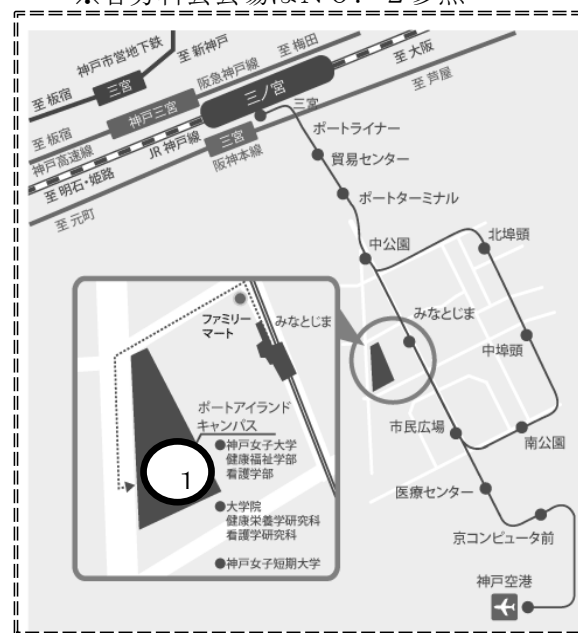
2019年12月27日

《冬大会会場周辺図》

①神戸女子大

ポートアイランドキャンパス

※各分科会会場はNo. 2参照



②ダイニングレストラン

アマーヴェル（交流会会場）

※開宴は18:30

※参加費 5000円



神戸物語2

2019年12月27日 発行：冬大会実行委員会
～100万ドルの中心から躍動を～ No. 2

みんな悩んで教師になろう！
〈第三章〉「授業の見方が変わる、教師の生きざまが変わる」

大会通信 「神戸物語」について

昨年の 2018 年より冬の研究大会が神戸市開催となり、二年目を迎えた今年
はここ、神戸女子大学ポートアイランドキャンパスでの開催です。

本通信が、参加者みなさんの学びに少しでも寄与できるよう、また、長い学
期が終わり疲れも残るこの時期にも関わらずこの場へ学びに足と情熱を向け
られた参加者のみなさんにとってよき豊かな出会いがありますように、とのお
もいで本通信「神戸物語」を発行します。

なお、印刷とスケジュールの都合があり「速報」はかないません。本日 27
日のみなさんの学びの様子は明日の通信で、また明日 28 日の様子は体育同志
会ホームページにてお届けします。各講座にて参加者名簿に電子メールアドレス
をお書きいただいた方には、後日通信データを配信します。

ご了承の程、よろしくお願いします。

※学校体育研究同志会ホームページ ⇒ <http://taiiku-doshikai.org/>

【↓以下のQRコードからもホームページへ移動できます】



《1 日目の会場》

27 日（金） 10 時～ 12 時		【実践力パワーアップ公開授業講座】 「いっしょに授業を創りませんか ～ラグ・ラグビー～」	B-407
27 日（金） 13 時～ 15 時 15 分		【全体会】 ・ 実行委員長あいさつ ・ 研究局発題 ・ 共通講座「体育を変えた実践家②」	B-403 ADホール
27 日（金） 講座① 15 時 30 分～ 17 時 30 分	A	めっちゃこだわる教材研究①	B-305
	B	めっちゃこだわる教材研究②	A-404
	C	からだを知る！素敵な保健の授業	A-307
	D	目の前の子どもから創る障がい児体育の授業	A-302
	E	学級づくり・学校づくりと体育	B-307
	F	自主・自立・自治と俺らの部活動	A-403
	G	平和教育とスポーツ	A-303

《2 日目の会場》

28 日（土） 講座② 9 時～ 11 時	H	めっちゃこだわる教材研究③	B-307
	I	これから性教育を学ぶ人のために	A-404
	J	子どもが動き出す運動会	B-305
	K	子どもをわかること,子どもとわかること	A-403
	L	ルーシーの「あなたのお悩み解決します」	A-307
	M	体育理論の授業が子どもの世界を変える	A-303
	N	じっくり実践・S 君との一年	A-302
28 日（土） 11 時～ 12 時		【全体会】 ・ まとめ ・ 現地事務局より	B-403 ADホール

※実行委員会室はB-407です。※※各会場、食事禁止となっています。（1 階のオープンスペースにて可能です）

神戸物語2

～100万ドルの

中心から躍動を～

2019年12月28日

発行：冬大会実行委員会

No. 3

みんな悩んで教師になろう！

〈第三章〉「授業の見方が変わる、教師の生きざまが変わる」

★実践力パワーアップ公開授業講座のようす★



本日は、講座でお話しいただきありがとうございました。岨先生の実践は、いつも面白く、多くの工夫がされていてとても勉強になります。自分は父親の影響もあって、ラグビーに触れる機会が多かったのですが、「タグラグビー」をしているとやはりルールが複雑であるとか、突進することの楽しさが分らないとよく言われます。しかし、それはボールを持っている人の視点（見方、考え方）であり、ボールを持たない人の動きを作り出す「タグラグビー」は得意、不得意に関わらず、混ざり合う中で「トライ」という1つの目的に向かって共に作戦をたて、役割の中で動くことを学んでいくものであると思います。実際に大学の授業の中で「フラッグフットボール」や「タグラグビー」をする機会があり、多くの作戦やつまずきを見出すことができました。なので、これから教育現場で実践できるように形を工夫していきたいと思います。本日は有難うございました。

限られた時間、限られた空間の中で、なかなか内容の濃いパワーアップ講座になった。参加者を事前にグルーピングして運営したのがよかったし、各グループで討論する時間が設定されていたので、みんなが講座に積極的に参加できたと思う。

タグラグビーはラインを前に進めるボール保持者の動きとタグを取られてもプレーが連続するところに特徴があって、最終的にはトライはチームの成果という意味があると思う。



タグラグビーの実践を聞かせてもらい、とても勉強になりました。4年生でのフラフトの前にタグラグビーをやるのはとてもいいなと思いました。味方への後パスとボールを持っている子につく、このことが分ければ、スムーズにできそうだと思います。攻めも、空間をどう切り抜けるか、それもいいし、そして、守りのタグを取る時（取った時）の爽快感があるなあと思いました。そのための、コートや人数もできそうなことをやりながら、考えていけばいいと思います。実践してみたいと思います。

神戸物語2

2019年12月28日
発行：冬大会実行委員会
～100万ドルの
中心から躍動を～
No. 4

みんな悩んで教師になろう！
〈第三章〉「授業の見方が変わる、教師の生きざまが変わる」

★全体会のようす★



学校現場においても『系統性』という言葉自体は耳にしますが、子どもの実態や発達段階を考慮しているものかは疑問視すべき内容なものです。

子どもの生活に根付いて、実態を踏まえた『系統性』が必要だと久保先生のお話を聴いて思いました。今改めて小学校過程でどのような『系統性』を引き継ぐか議論が必要ですね。

系統性というものが一人歩きしているという指摘もあるが、それぞれの運動文化、教える内容の系統性がどのような過程で、どのような思想でできてきたのか考えることで一人歩きさせないという話は共感した。

今、スタンダード化される中で教師が考えずに(考える時間を与えられずに)批判的に検討して、実践を積み重ねることで吟味していくことが今まさに求められているのではないかと思った。また、荒木豊氏の文章を読みながら今後の実践につなげていきたいと思う。



★講座①のようす★

《A めっちゃこだわる教材研究①》

やっぱり牧野さんの話は興味深い。自分の中で疑問があることが、実践のエネルギーになっている。

「面白そうだから一度やってみよう」ではなく、「それっているのか？」があり同志会自体の問題提起にもなっている。

その疑問や問題提起がどこにいき着くのかというゴールが見えたら、もっとこういう先生が増えていくと思う。

すごい研究されている授業だなと思いました。実際にビデオを見て子どもたちの成長の過程がハッキリと分かり、苦手な子も「できる、分かる」が身につけているなと感じました。

また、車いすバスケでも、実際に選手たちを呼んで教具を使いながら授業をすることで子どもたちの興味関心やオリパラ教育にもつながっていてとてもすごいなと感じました。



《B めっちゃこだわる教材研究②》

圧倒的な教材研究におどろかされました。私はこの夏、運動会のための花笠音頭(山形)、ごんぎつね、新見南吉(愛知)へ 現地へ行ってきました。平野さんやユージン・スミスのように現地の人と共に時を過ごせていませんが...

認知的共感として子どもにとらえてほしい。それをゴールとして授業をつくりたいなと思った次第です。

平野さんの授業づくり(も含めて水俣病の授業)のポイントは、認知的共感。平野さんの認知・世界観と共感の統合を現地の当事者の現実から生み出されていること、そこから教えるべき内容と教材を構成し、子どもたちに問いを投げかけている点であるように思った。その授業づくりを続けているプロセスに圧倒される思いでした。同志会の実践課題である、「ともに意味を問い直す」授業づくりにつながる実践であると思います。平野さんの教師としての「認知と共感のつながり」を出発とした授業が、子どもの「認知と共感のつながり」にどう反映していくのか、もう少し聞きたいところでした。授業の中で認知と共感につながる時にその際の仕掛けは何か、どんなときかな？

神戸物語2

2019年12月28日 発行：冬大会実行委員会
～100万ドルの中心から躍動を～ No. 5

みんな悩んで教師になろう！
〈第三章〉「授業の見方が変わる、教師の生きざまが変わる」

★講座①のようす★

《C からだを知る！素敵な保健の授業》

特別支援学校高等部勤務ですが、保健の授業“自分自身を知る”ことにつながり、とても大切だなと考えさせられました。“性教育をしなきゃ”と意気込んでしまいましたが、それだけでない“保健”ということで何を伝えたらよいのか改めて考え実践したいと思いました。

保健体育を学ぶにあたり、保健分野では、命や体のことについて主にやと思う。その時に、分かっておかなければいけないことが、自分の体だということだと思う。今回のように、絵や問いがたくさんあれば、子どもたちも良く分かりやすいし、興味を持つと思うので、私も、生徒に授業を行う時、もっと、分かりやすい説明と、絵を与え、その授業で伝えたいことを必ず持つておくことを意識していきたい。私は、教具を作ることが多い方なので、より面白い授業を作りたいと思える講座でした。ありがとうございました。



《D 目の前の子どもから創る障がい児体育の授業》



運動に苦手意識のある子や、なかなか参加したいけれども自信が持てない子も含めて、みんなと一緒にわかりできる楽しい運動文化づくりの大切さを改めて感じた。来年からの特別支援学校の実践にも活かしたいと思います。

小学校の体育の授業が行事の下請けになり、支援学級はその孫請的になってしまうことがあり、子どもの実態からスタートする教材づくり授業づくりが書かせないと反省させられました。なかなか関わって遊ぶのが難しいと思っていましたが『もっとやりたい』と思うような教材と出会える授業を、子どもたちと創りたいです。

《E 学級づくり・学校づくりと体育》

私の学級は、単学級、全校児童 96 人、教師 16（事務の先生込）の小規模校です。職員も 50～60 代と 20、30 代が多く軽いカーストが構築されています。そのため、職員室では、あまり活発な話し合いは無く、互いにが互いに無関心です。何が良いか悪いか分からず、8 カ月が経ちました。制野先生のお話を聞き、このままではいけないと思いました。

構造と反構造の行き来。構造だけでは息がつまる。祭りの要素や心の安らぎ。今日。お話を聞いて制野先生のバイタリティの高さに驚き、そして襟を正される思いでした。しんどいけれど、やはり、何かを試すにはエネルギーがいる。「誰かがやってくれる」では何も変わらない。自分から発信していける強さを身につけたい。

神戸物語2

2019年12月28日 発行：冬大会実行委員会
～100万ドルの 中心から躍動を～ No. 6

みんな悩んで教師になろう！
〈第三章〉「授業の見方が変わる、教師の生きざまが変わる」

★講座①のようす★

《F 自主・自立・自治と俺らの部活動》

松宮さんの子どもたちとの楽しい時間を共有して、子どもたちの成長を喜ぶところがよかった。

自治の力をつけるといった時、その力の具体像を描くことの大切さ。

それを教員が共有していく道筋をどうつかうのか？

部活動の目標（自立像）—内容—指導方法（内容に応じた指導方法）—評価の観点から整理してみると良いか
と思います。授業と同じように教師が指導している訳ですから。



《G 平和教育とスポーツ》



広島で「ヒロシマ」を伝えることが難しくなっている「平和教育」までマニュアル化され、「平和ノート」なるものが市教委から配布されるその学校でその地域の子どもたちと調べ、学びヒロシマを風化させず、未来へと伝えていきたい。2020年ヒロシマのあつい夏で、ともに学びましょう。

広島大会のテーマ足元の平和と澤先生の今日の話は、深いところでつながっている。

澤先生の熱くおもしろい話に引き込まれました。平和について考えが深まり教師として大切にせなあかんことをまた心に刻めました。

★交流会のようす★



本日 28 日の通信は電子メールにてお届けします。また、ホームページにも掲載しますので、ご覧下さい。

神戸物語2

2019年12月29日 発行：冬大会実行委員会
～100万ドルの中心から躍動を～ No. 7

みんな悩んで教師になろう！
〈第三章〉「授業の見方が変わる、教師の生きざまが変わる」

★講座②のようす★

《H めっちゃこだわる教材研究③》

岡崎先生！本当に感動しました。今回の冬大会でいろんな先生の話を知りましたが、初めて鳥肌が立ちました。講座の内容も生徒みんなのことを一番に考えた授業の作り方も学校と戦う姿も全部あこがれました。正直、私自身今でも教員になる不安が大きく、なってからのことを考えるのが怖かったですが、何かあったらいろいろ悩んだ上で、考えた上で、たくさん岡崎先生に相談したいです。絶対宮城の教員になるので、これからもよろしくお願いします！！

多くの実践ありがとうございました。私は、一昨日の宮城での公開授業を見させてもらいました。自分自身もとても性についての内容に興味があり、この世の中は多様な性が存在しているのだと改めて感じます。学校現場で、実際に人相手の仕事につく前に、その学校にも、実際にいるのだと思い、考えながら授業をしていかなくてはいけないなと思うことができました。ありがとうございました。

《I これから性教育を学ぶ人のために》

滋賀の先生から梁田先生の性教育だけでは何が何でもいけ！と言われ、自分もものすごく興味がある内容なのでわくわくして来ました。自分が想像していた性教育とは全く違う保健の授業で「これをもってくるか！」という印象でものすごく学びになる時間でした。確かに「未来の主権者、性の主体者」を育てるために、ただ性器のことを教えているだけでは体育教師でなくてもできると思いました。自分にしかできない、そして子どもに何を伝えて、どのような大人になってほしいのか、願いや思いをもって今後取り組みたい！ありがとうございました。



来年度から現場に出るので性教育って何を教えるんだろうと思っていました。中学生頃から体は大人になっていくのでしっかりと知識が必要だと思います。一人一人違って当たり前、成長スピードも違うということは必ず伝えたいと思います。性教育は生き方にもつながってくるので、子ども一人一人の多様な生き方を認めてあげたいと思います。今日はありがとうございました。

《J 子どもが動き出す運動会》

運動会の歴史、勉強になりました。実践の内容も共感するものが多く、原点を確認できた気がします。一方で、今、どんどん縮小化に進んでいる現場の実態が気になります。地域のクレーム問題なども出ていましたが、その実態を把握して、考えていきたいです。

運動会って今後どうあるべきなのかなあと、考えるきっかけになりました。時数、天候による対策、国の方針(?)などこみこみで、子どもたちが生き生きと活躍する場として何ができるのかなあと。子どもたち自身で作っていかないと、やらされてるだけのもの（今年がそうだった）・・・つまらないなあと。子どもも教員もしんどいだけ、小さい所からでも少しずつ自校の運動会を変えられそうかも・・・！？と活路を見出だせました。

神戸物語2

2019年12月29日 発行：冬大会実行委員会
～100万ドルの中心から躍動を～ No. 8

みんな悩んで教師になろう！
〈第三章〉「授業の見方が変わる、教師の生きざまが変わる」

《K 子どもをわかること、子どもとわかること》



子どもとどう関わっていくのか、とても分かりやすい新鮮な講座をして下さり、ありがとうございました。メイちゃんが親密な2人と楽しくボッチャができたように、今後、メイちゃんと周りの子どもたちがメイちゃんと仲良くやっていくには、どのようなことが必要なのか、考えさせられたと同時に親しい友達の存在の大切さ、学級の仲の良さが本当に大切だということを感じました。とても勉強になりました。

これまで私たち日本の教師は、学級(組)を基礎に教育をつくり、実践をしてきました。一人ひとりの子どもの先生であることよりも○年△組の担任教師として、まとめていくことを優先してきたと思います。しかし、西田先生のお話では、一人の子の固有の課題、欲求をとらえることより大切にされていました。そこが印象的でした。メイちゃんの後(一年間最後のアンケート)に「わたしにあった勉強の仕方」を書いてきたことに、学校教育の残された可能性を見る思いでした。ありがとうございました。

《L ルーシーの「あなたのお悩み解決します」》

3 人の話から共感的な雰囲気話していくのがよかったです。こういったことが自分の現場や自分が入っている組合などにあればいいのですが、どこもないところがほとんどなので、こういう会は定期的に同志会にもあったら若手はすくわれると思いました。

現場の先生方の悩みをたくさん聞くことができ、まだ現場にでたことのない私にとってとても貴重なお話でした。将来、特別支援学校の道へ進みたい私にとって、今の保健・体育の学びは意味あるものだろうか2年間くらい悩んでいました。でも、今日多くの人のアドバイスを頂き、保健・体育の学びがもしかしたら、特別支援学校での学びにつながるかもしれないし、つながらないかもしれないけど、たとえ将来の道へつながらなくてもどこかで役に立つことかもしれないと思えることができました。本当に時間があっという間で他の先生方の話もたくさん聞きたかったというのが正直な気持ちです。この講座に参加できてよかったです。ありがとうございました。

《M 体育理論の授業が子どもの世界を変える》

実践にいかすのはまだまだですが、新しい観点楽しかったです。

体育理論の授業というと難しいけれど生徒の問いに対してその答えを求めるものとして、教室でやることも理論としての授業になると思います。また、授業の中で歴史や文化のもの、例えばバレーボールならば、キャッチバレーやホールディングバレーも理論を通じて体育の授業のあり方になると思うのでそのような授業がみたいです。

神戸物語2

2019年12月29日 発行：冬大会実行委員会
～100万ドルの中心から躍動を～ No. 9

みんな悩んで教師になろう！
〈第三章〉「授業の見方が変わる、教師の生きざまが変わる」

《N じっくり実践・S 君との一年》



笹田さんの実践は S 君に程よい距離間がかかわっているのが強烈に伝わってきました。そして S 君が自分の中から「やろう！！」「楽しもう！！」というものがわいてくるように仕組んだり待ったりしている笹田さんの姿がよく見えてきました。「させないといけない」の変な教師根性を捨てた 正義の実践ではないだろうか。

話を聞きながら竹沢清さんの記録を思い出しました。笹田先生が竹沢さんの記録を勉強しているとは思いました。S 君の要求に寄り添い、S 君が心を開いていく様子がよくわかりました。

それにしてもやんちゃ君のことをもう少し知りたいと思いました。

★全大会 まとめ のようす★

冬大会のまとめで、各講座の内容を発表されているのを聞いて、どの講座も魅力的な内容だったことが感じられた。今回は特別支援学級を担当していることもあり、障がいに関することを中心に講座を選んだが、次回は体育の実践に直接結び付くようなものを選択しようと思った。交流会のご飯の量がもっと多ければいいなと思いました。



冬大会への参加者数 122名！（大レク79名）

◆支部別◆

宮城	千葉	埼玉	東京	神奈川	山梨	福井	静岡	愛知	三重
9	2	5	13	9	1	1	1	8	1

滋賀	京都	大阪	和歌山	兵庫	岡山	広島	山口	福岡	鹿児島
7	5	22	1	28	1	4	2	1	1



広島大会

（8月8日～8月10日）

でお会いしましょう！